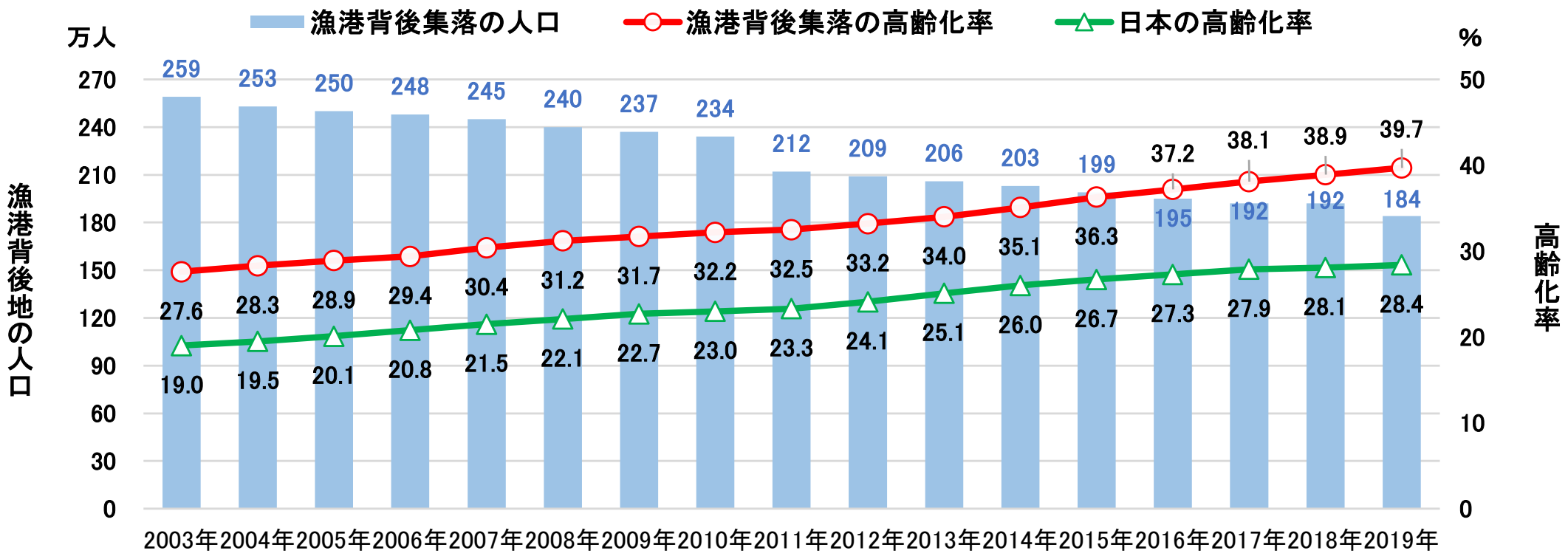
# 多様な主体との連携の推進に向けて

水産多面的機能発揮対策検討委員会・連携推進部会座長

樋田　陽治

# （1）漁村の現状と課題

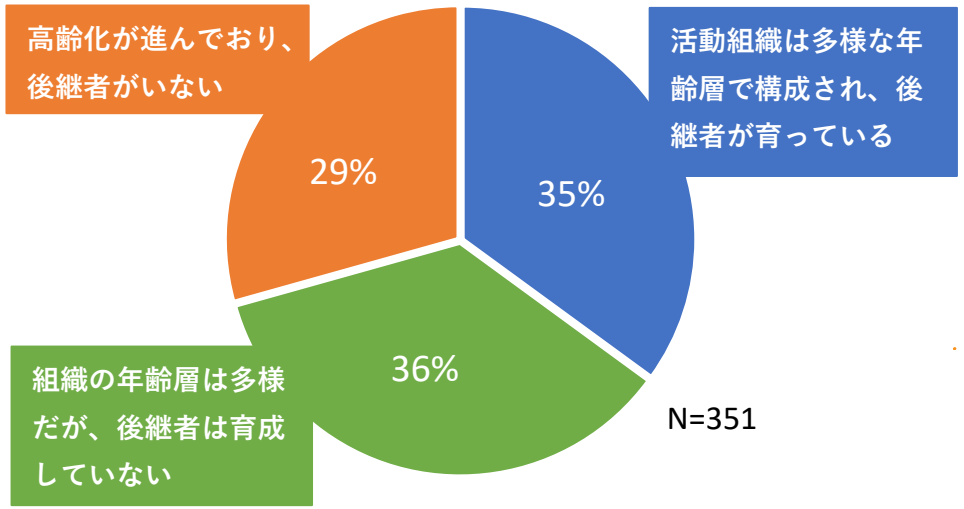
・漁村の人口は一貫して減少している
・漁村の高齢化率は全国平均よりも高い



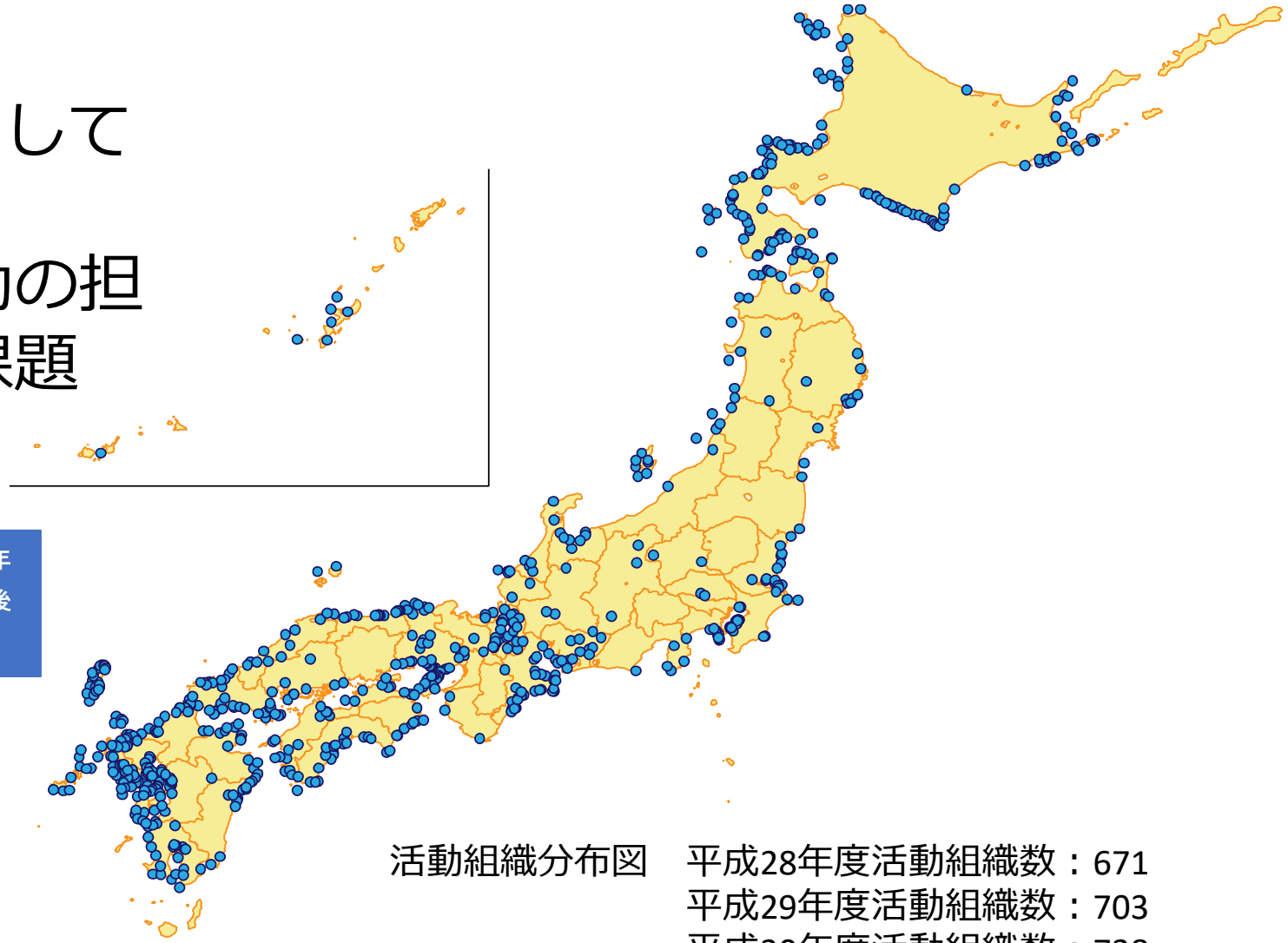

出典：水産庁（https://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/wpaper/r01_h/trend/1/t1_5_1.html）

# （2）水産多面的機能発揮対策の現状と課題

・企業、NPO、学校等と連携している活動組織は約３割
・構成員の高齢化、発揮活動の担い手不足、後継者不足が課題




出典：JF全漁連・全内漁連によるアンケート（令和元年度）



活動組織分布図

平成28年度活動組織数：671
平成29年度活動組織数：703
平成30年度活動組織数：738
令和元年度活動組織数：751

# （3）多様な主体との連携の必要性

①問題意識の共有

②活動組織の体制強化

③発揮活動の活性化、多様化、効率化

④地域に広がる理解と活動への参加

⑤漁村・地域への貢献

↓

連携事例のヒアリング調査を実施

# （4）連携事例

## ①海面

| 保全対象 | 藻場の保全（漂流・漂着物・堆積物処理を含む） | | | |
|---|---|---|---|---|
| 県市町村 | 神奈川県藤沢市 | 福井県小浜市 | 三重県鳥羽市 | 福岡県新宮町 |
| 活動組織 | 江の島フィッシャーマンズ・プロジェクト | 小浜市海のゆりかごを育む会 | 浦村地区藻場保全活動組織 | 相島地区藻場保全協議会 |
| 構成員 | 1. 江の島片瀬漁協<br>2. ボランティアダイバー、ダイビングショップ、　企業（個人）、水族館 | 1. 小浜市漁協<br>2. 社団法人、高校、大学 | 1. 鳥羽磯部漁協浦村支所<br>2. 海の博物館、小中学校 | 1. 新宮相島漁協<br>2. 企業（市民ダイバー） |
| 主な活動内容 | 1.ウニ除去、種苗投入他<br>2.海底清掃<br>3.体験学習会（海藻ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ） | 1.母藻設置、アマモの移植他<br>2.海岸清掃<br>3.体験学習会 | 1.アマモの移植・播種<br>2.体験学習会 | 1. ウニ除去、母藻設置他 |
| 他主体と連携した成果 | ・年々、市民ダイバーのスキルが向上しており、積極的に活動に取り組んでいる。<br>・イベントには多くの市民が参加し、リピーターも多い。<br>・様々な媒体で紹介され、協力者が増えている。 | ・連携により活動の幅が広がった。<br>・社団法人が再生プランの構築や体験学習会を担当。<br>・高校は探究の授業を通して、生徒の主体性を高める学びを実施。 | ・博物館が事業の計画策定から事務まで担当<br>・県内外の多くの学校の生徒を受け入れた。<br>・博物館が漁業者と子ども、都会の人達をつなぐ 交流の拠点となっている。 | ・市民ダイバーがウニ除去の戦力となり、漁協はダイビングの機会と場を提供<br>・市民ダイバーは楽しみながらウニ除去を実施 |
| 今後の課題 | ・漁獲量の低迷、海藻の食害<br>・漁業者の積極的な参加<br>・イベント開催の予算確保 | ・費用のかからないアマモ移植方法の検討 | ・地元小・中学校の統廃合<br>・漁業者の積極的な参加 | ・効果的な藻場再生<br>・ボランティアダイバーの人材確保、参加回数の増加 |

| 保全対象 | 干潟等の保全（藻場の保全、漂流・漂着物・堆積物処理を含む） | | | |
|---|---|---|---|---|
| 県市町村 | 千葉県船橋市 | 愛知県蒲郡市 | 兵庫県たつの市 | 広島県東広島市 |
| 活動組織 | 船橋市漁業協同組合活動グループ | 蒲郡市漁場環境保全協議会 | 岩見地区豊かな海づくり活動組織 | 安芸津干潟研究会 |
| 構成員 | 1. 船橋市漁協<br>2. 地域住民、直売所職員 | 1. 蒲郡漁協西浦支所<br>2. 小学校 | 1. 岩見漁協<br>2. 観光協同組合 | 1. 安芸津漁協・早田原漁協<br>2. 般財団法人 |
| 主な活動内容 | 1. 客土、食害生物除去他<br>2. 監視活動<br>3.体験学習会 | 1. アマモの移植・播種<br>2. 耕耘、食害生物等除去 他<br>3. 体験学習会 | 1. 耕耘、稚貝の沈着促進<br>2. 海岸清掃 | 1. 稚貝の沈着促進 他<br>2. 里海学習会 |
| 他主体と連携した成果 | ・地域住民が海苔漉き体験会などの講師を担当<br>・漁業者は当事業及び地元漁業を伝える講師を担当<br>・市役所が全体計画から事務処理、体験学習会のロジなどを積極的に支援 | ・小学校は郷土を学ぶ教材として活用<br>・漁協は地域の子供が海に接する機会と教材を提供<br>・長年にわたり、相互補完的な関係を構築している | ・海岸清掃、稚貝の沈着促進を共同で実施<br>・観光組合が運営する潮干狩り場の環境整備に貢献<br>・水産業と観光業との人的・物的な交流に寄与 | ・財団が、事務作業、モニタリング、体験学習会を担当。<br>・財団は理念に合致した事業として展開<br>・多くの市民（親子）に地元の海に接する機会を提供 |
| 今後の課題 | ・青潮対策、砕石覆砂によって沈着したアサリ資源の保護<br>・地元水産業のPR<br>・学習会講師の後継者育成 | ・アマモの種の確保<br>・子供の減少、小・中学校の統合 | ・効果的なアサリ資源回復の手法導入 | ・効果的なアサリ資源回復の手法導入<br>・漁業者講師の育成 |

| 保全対象 | サンゴ礁の保全（漂流・漂着物・堆積物処理を含む） | | |
|---|---|---|---|
| 県市町村 | 静岡県南伊豆町 | 徳島県海陽町 | 沖縄県伊江村 |
| 活動組織 | 伊豆FNY活動組織 | 竹ヶ島海中公園のエダミドリイシサンゴを守る会 | 伊江島海の会 |
| 構成員 | 1. 伊豆漁協南伊豆支所<br>2. NPO、ダイビングインストラクター | 1. 宍喰漁協<br>2. NPO、任意団体 | 1. 伊江漁協<br>2. 企業（リゾートホテルのマリンレジャー部門） |
| 主な活動内容 | 1.浮遊堆積物の除去<br>2.海岸清掃 | 1. サンゴの種苗生産・移植、浮遊・堆積物除去　他<br>2. 体験学習会 | 1.サンゴの種苗生産・移植、食害生物。浮遊堆積物除去 他<br>2.体験学習会 |
| 他主体と連携した成果 | ・町内の農林漁業者のNPOが清掃活動を運営することで、町内の住民同士、あるいは都市部からのボランティアとの交流が生まれ、地域のコミュニティに厚みと広がり<br>・漁業者や住民の環境意識の高まり | ・NPOを窓口に、京阪神など町外から若いボランティアダイバーを募ることで、海中の浮遊物除去、リーフチェックを的確に実施<br>・浮遊堆積物の除去、リーフチェックの運営はNPOが担う<br>・体験学習会の講師を任意団体が分担 | ・若手ダイバーの参加による作業の確実性と効率化<br>・漁業者とマリンレジャー業者の融和と協調 |
| 今後の課題 | ・観光と環境保全の両立<br>・漁業の若い担い手不足 | ・漁業者の構成員の高齢化<br>・地区による保全活動への関心度の違い | ・活動計画や成果の情報共有<br>・企業の自主的な環境活動 |

# ②内水面

| 保全対象 | ヨシ帯 | 内水面生態系 | | |
|---|---|---|---|---|
| 県市町村 | 滋賀県長浜市 | 秋田県湯沢市 | 愛媛県西条市 | 鹿児島県出水市 |
| 活動組織 | 姉川水系びわ湖湖岸海浜整備活動組織 | 湯沢市河川愛護会 | 加茂川をきれいにする会 | 高尾野川をきれいにする会 |
| 構成員 | 1.南浜漁協<br>2.中学校、NPO、生活推進協議会、2自治会 | 1.役内・雄物川漁協、皆瀬川筋漁協<br>2.企業2社、NPO等2団体 | 1.加茂川漁協<br>2.企業1社（水力発電関係） | 1.高尾野内水面漁協<br>2.自治連合会、地元2団体 |
| 主な活動内容 | 1.浮遊堆積物の除去<br>2.ヨシ苗の生育、植え付け（ヨシ行けどんどん作戦） | 1.河川清掃<br>2.簡易魚道設置<br>3.体験学習会（夜突き大会） | 1.河川清掃<br>2.体験学習会(稚魚放流等) | 1.河川清掃<br>2.石倉カゴ<br>3.体験学習会（水生生物） |
| 他主体と連携した成果 | ・中学校の「ヨシ行けどんどん作戦」を拡充して継続<br>・生徒がヨシ帯の役割や地元漁業を学習<br>・漁協だけでは限度のある活動を支援 | ・企業はCSR(社会貢献活動)として参加<br>・NPO等は豊富な経験や技術を発揮<br>・河川清掃に地元住民が参加<br>・活動に広がりが生まれた | ・企業はCSR(社会貢献活動)として参加<br>・職員の河川環境や現場の理解を促進<br>・漁協には若い人たちと話し合える機会になった | ・河川に対する構成員の理解が広がり、地域全体の河川愛護につながる<br>・教育関係者との連携がスムーズになり、川に入る小学生の安全対策も進んだ |
| 今後の課題 | ・活動の継続<br>・波や漂着物がヨシ帯の広がりに障害<br>・小学校の活動参加 | ・活動の継続<br>・2019(R2)年に合併した漁協管内にも活動を広げたい | ・活動の継続<br>・漁協と企業が協力しながら河川環境の維持を図る | ・活動の継続<br>・年１回の全体会議の開催 |

# ③企業が独自に取り組む環境保全活動

| 企業名 | （株）ヤマリア | グローブライド（株） | （株）マルハニチロ | セブンイレブン記念財団 |
|---|---|---|---|---|
| 所在地 | 神奈川県横須賀市 | 東京都東久留米市 | 東京都江東区 | 東京都千代田区 |
| 従業員数 | 180名 | 6,308名（連結） | 11,276名（連結） | 17人 |
| 主な業務内容 | 釣具漁具製造販売 | 釣用品、サイクルスポーツ用品等の製造・販売 | 漁業、養殖、水産物の輸出入・加工・販売 など | 店頭募金と寄付金による環境市民活動支援など |
| 環境活動・社会貢献活動の内容 | 1.アオリコミュニティ（アオリイカ産卵床設置支援プロジェクト） | 1.グローブライド・水と緑と太陽の森林<br>2.河川・湖沼の清掃活動など | 1.アマモ場再生活動への参加<br>2.全国アマモサミット「高校生サミット」への協賛<br>3.清掃活動、ｲﾍﾞﾝﾄ開催など | 1.セブンの森づくり・セブンの海の森づくり<br>2.環境市民活動助成　など |
| 支援の対象 | 漁協、NPO、公益団体　等 | 森林組合 | アマモサミット実行委員会等 | 漁協、市民団体、行政 |
| 活動の目的・目標 | ・アオリイカ資源の増加<br>・アオリイカ釣りが継続できる環境作り<br>・釣り人のマナーの向上 | ・森を守ることで、当社のレジャーフィールドである川と海を守ることにつなげる（森・川・海の連携） | ・サステナビリティの強化<br>・ESG（環境・社会・ガバナンス）に配慮した企業活動による投資の呼び込み | ・長期的な協定締結により、地域に親しまれ、次世代に繋げる地域一体型の森づくり、海の森づくり |
| 連携による成果 | ・新人研修として活用<br>・アオリイカの生態把握<br>・関連製品の販促、需給予測 | ・社員研修として活用<br>・県よりCO2吸収評価認証を取得 | ・近年はCSRの内容が学生による就職先の選定基準となっており、人材確保に貢献 | ・地域の活力が最大限に発揮される取組となっている<br>・本体事業に地域の商品を取り入れていくことに繋がる |
| 水産多面的機能発揮対策に参加するための要件等 | ・地元に連携する団体それぞれの思惑を調整する旗振り役がいると参加しやすい。<br>・遊びの場と漁業者の生活の場の融合について、共に考える機会になるとよい。 | ・投資を呼び込むため、SDGsに基づいた環境保全活動がしたい。<br>・当事業は協力できるメニューが多く、ニュース性も高い。また、KPIにも活用できる。<br>・連携は単年度ではなく、複数年度で実施したい。<br>・貢献できているという実感を得られることが重要。 | ・アマモの保全活動を当社の全国の拠点に広げていきたい。<br>・ESG の観点から、将来的にはco2吸収量等の数値による成果の見える化が必要。<br>・まずは１か所でモデル的に連携したい。<br>・コベネフィットやブルーカーボンの評価ができれば、ガラモ場の取組も支援したい。 | ・当財団の役割は、財政支援及び地域のステークホルダー間の調整やネットワーク形成を担うコーディネーターである。<br>・当財団との協定は複数年度かつ更新可能なことが条件である<br>・関係者の全てがWIN-WINとなる成功事例を作ることが大事。<br>・今後は干潟の保全活動や海中清掃なども支援したい。 |

# （5）成果のまとめ（漁業者・漁協）

①問題意識の共有
- 食害生物の大量発生や、ゴミの投棄など漁業者が直面している問題について情報共有が図れた。
- 問題の解決には漁業者だけでなく、地域が一体になって取り組むことに理解が得られた。

②活動組織の体制強化
- 企業（個人を含む）等の参加により保全活動の人員が確保された。
- 参加団体が事務処理や予算管理、理解増進の取組、モニタリング等を担い、漁協の負担が軽減された。
- 行政（市役所）のバックアップにより、活動が円滑に進んだ。

③発揮活動の活性化、多様化、効率化
- NPO等が経験・技術を発揮することにより、活動に広がりが生まれた。
- 連携によって取り組めるメニューが増えた。
- 参加団体、地域住民等との役割分担により、活動を効率的に進めることができた。
- 企業や市民ダイバーの協力により、効率的に食害生物を除去できた。
- 河川管理者との意思疎通が可能になった。河川利水者（水力発電）と話し合う場ができた。

④地域に広がる理解と活動への参加
- 自治会や教育関係等との連携により、地域の幅広い理解が得られた。
- 取組がメディア等で紹介され、協力者が増えた。

⑤漁村・地域への貢献
- 子供たちに、地域や環境について、体験学習の場を提供できた。
- 環境学習の取組に、県内外から多くの学校を受け入れた。
- 漁業者と子ども、都会の人をつなぐ交流の場ができた。

# （6）成果のまとめ（企業、NPO、学校等）

## ①企業等

＜活動組織構成員＞

・CSR（地域貢献活動）の一環として地域と交流し、地域に貢献することができた。
・食害生物の除去活動を通じ、漁場において漁業者と市民ダイバーが協働することができた。
・河川等で利害関係にある漁協と協働することができた。

＜本事業外の連携＞

・新人研修、社員研修に活用できた。
・関連製品の販促、需給予測に役立った。
・CSRの内容が就職活動を行う学生に評価され、人材の確保に貢献した。
・行政からco2吸収評価に関する認証を受けた。
・地域の活力が最大限に発揮されることを目指す「地域循環型共生圏」の思想に合致した取組を展開することができた。
・企業の本体事業に地域の商品を取り込むことにつながった。

## ②自治会、地域住民、行政（市役所）

・親子で自然に親しめる機会を得ることができた。
・子どもが川や海に接する時の安全対策について指導を受けることができた。
・観光事業（潮干狩り）の場の資源維持と環境改善に資する活動ができた。
・市が実施していた同趣旨の事業から乗り換え、拡充することができた。

## ③NPO、公益団体（財団、博物館）

・公益団体の理念に合致した活動や環境学習を実践することができた。
・NPOがもつ知識、経験、人材を活用することができた。

## ④小・中学校、高校

・小学校の6年間を通じた「海の学習」を実践することができた。
・中学校のPTA行事を実施することができた。
・高校生の探究活動や課外活動を実践することができた。

# （7）課題のまとめ

## ①漁業者・漁協

- 活動範囲を拡充したいが人手が足りない
- 体験学習イベントの予算を確保したい
- 地元の漁業、水産物の認知度を高めたい
- 保全活動の成果を共有しPRするための、より効果的な保全手法の開発と実践が必要
- 青潮や漂着物等、本対策ではカバーしきれない広域的な問題に直面している
- 将来にわたって発揮活動を継続するための体制整備が必要
- 企業やNPO等の要望や意見を反映した活動計画の策定と提案
- 児童の減少に伴う地元小・中学校の統廃合により新たな連携先を模索する必要がある
- 学校のカリキュラムに合致した活動計画の　策定と提案。

## ②企業等

＜活動組織構成員＞

- 人員確保（ダイバー等）、参加回数の増加
- より多くの漁業者に積極的に参加してほしい
- 活動組織の一員としての、より主体性な関与

＜本事業外の連携＞

- 長期的な関係の構築を望む
- 企業と地域（活動組織）を仲立ちする旗振り役がほしい。
- 参加者が貢献できているという実感がほしい。
- 参加する関係者のすべてがwin-winとなる成功事例をつくりたい。
- ESG（環境・社会・ガバナンス）　の観点から、将来的にはco2吸収量等の数値による成果の見える化が必要。
- 漁場とレジャーの場との融合について共に考える場がほしい。

連携のあり方に関する提言に向けて検討